

❖ 見果てぬ夢

よく知られた唱歌「ふるさと」。その最終章の歌詞「志を果たして、いつの日にか帰らん……」を聞くと、いつも胸に迫りくる想いがこみ上げる――。

ルンデを立ち上げた時45歳だったわたしは、「満70歳でヤメル」と宣言した。

そして、自らが理想とするコンサート＝会場、主宰者、聴衆、演奏家が一体となって創り上げる「音楽の場」＝の具現を目指して、ひたすら猪突猛進した四半世紀であった。

碌な資産も持たず一介の音楽教師に過ぎなかった身でありながら、すべてに於いて我流を押し進める姿勢に、周囲は等しく危惧の念を抱いていたと思う。

時は無情に流れ、75%くらいの達成感を得たところで終止符を打つ日を迎えたが、こんな酷な仕事を人に託することも出来ず、ルンデを閉じた。

ところが今、なんとルンデの再現を図ろうというアイデアが降って湧いてきた。仕掛け人の村林君は、学生時代からルンデに出入りし、よくその趣意を理解してくれていた人である。彼は、私の場合と違って、すでに多くの事業を手がけている実業家だ。そしてホールとともに（ルンデが当初望んで果たせなかった）財団組織も立ち上げるという。

近年病を得、もう古い先短くなった身にとって、これは何とも刺激的な出来事ではある。果たせなかった夢を繋いでくれる日の到来を心から待ち望めるのは、この上もなく楽しいことだ。

鈴木 詢

❖ 次の世代を育み託せる場所を

ダイブレイクフレイバーを法人化して15周年を迎えることが出来ました。これも偏に皆様方からのサポートをいただいた故と心から感謝致します。

次の15年は、何にフォーカスして活動していこうかと探っていたところでしたので、「室内楽専用ホール」を建設するという挑戦、大きなチャンスをいただいたと感じております。

我が街・名古屋は芸所。私の周りには「芸術」に携る方が大勢いらっしゃいます。そういう方々をはじめ、アーティストの養成、演奏家応援など芸術活動のサポートをできるのなら、我々にとってこれ以上の喜びはありません。

40年以上暮らしている大好きな街・名古屋に音楽をはじめとする芸術を呼び寄せる「場」、子どもたちにそれを直に体験、体感してもらう「場」、そういった「場」を皆さまと一緒に作り出せたら嬉しく思います。

ぜひ、皆さまのご支援をお待ち申し上げます。



株式会社ダイブレイクフレイバー 代表取締役 竹中 三四郎